

神宮に祈られる大御心

く伊勢神宮に関する御製を読むく

敬天塾 平井仁子

一、本年 宮中歌会始

御製

てんくう みようじょうなが あら とし へいあんいの
天空にかがやく明星眺めつつ新たなる年の平安祈る

召人 ピーター・J・マクミランさん

みそまやま あめ そまびと こえ いっぱんね
御杣山明るむ天に杣人の声ひびきたり「一本寝るぞ」

二、神宮と本居宣長

もも きぐさ あまてら ひ おおかみ めぐ
たなつもの百の本草も天照す日の大神の恵みえてこそ

あさよい もの とようけ かみ めぐ おも よ ひと
朝宵に物くふごとに豊受の神の恵みを思へ世の人

三、鎌倉時代の御製

第八十二代 後鳥羽天皇 『歴代天皇の御製集』百四十四頁

神祇（建仁元年―一二〇一）

みもすそや

神風の心にふかぬときのまぞなき

（内宮御百首）

ひさかたの空ゆくかぜに雲きえてつきかげさむし宮河のあき

（外宮御百首）

☆世のために

心ともあらぶる神は照し見るらむ

（弘安御百首）

※以下、☆マークは『歷代天皇の御製集』にも掲載されている御製です。

第九十二代 伏見天皇 『歷代天皇の御製集』百六十八頁

河月といへるころを

五十鈴川絶えぬ流れの底きよみ

澄める月かげ

（続千載和歌集）

第九十五代 花園天皇 『歷代天皇の御製集』百七十四頁

神祇を

にみだれしちりもをさまりぬ天照らす日のあきらけき世は

（風雅集）

『誠太子書』
かいたいのしよ

たいしハてうジテ

みやびとの

いまダ

たみのきふヲ

太子長

二 於宮人之手一、

未レ知

民之急一。

つねニ

きテ

きらノふくしよくヲ

なし

おもフコト

しよくはうのらうえきヲ

常

衣

二 綺羅服飾一、

無レ思

二 織紡之勞役一。

とこしなへニあキテ

たうりやうのちんぜんニ

いまダ

べんぜズ

かしよくのかんなんヲ

鎮

飽

二 稻梁之珍膳一、

未レ辨

二 稼穡之艱難一。

おいテ

くにニかつてなく

せいすんのこう

おいテ

たみニあニあラン

於レ國

曾

無二 尺寸之功一、

於レ民

豈有

二 毫釐之惠一乎。

ただもつテ

いフヲ

せんくわうの

よれつト

みだリニほつス

きセント

ばんきのじゅうにんヲ

只以レ謂

二 先皇之餘烈一、

猥

欲レ期

二 萬機之重任一。

なくシテ

とく

あやまつてたくシ

わうこうのうへニ

無レ徳而謬

託

二 王侯之上一、

なくシテ

こう

いやシクモのぞム

しよみんのかんニ

無レ功而苟

莅

二 庶民之間一。

豈不^{あにぎらん}二自^{みづから} 慙^{はぢ}一乎。^や（中略）

故思^{ゆゑにおもひて} 而學^{まなび}、々^{まなびて} 而思^{おもひ}、精通^{せいとうし} 二經書^{けいしよ}一、

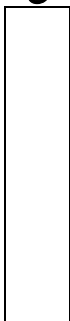
日省^{ひにかへりみ} 二吾躬^{わがみ}一、則^{すなはちあらん} 有^{ところ} 所^に 似^に 矣。

四、室町時代（南北朝〜応仁の乱）の御製

第百代 後小松天皇 『歷代天皇の御製集』百九十八頁

社頭祝言

☆日とてらし



この國を内外の神のまもるひさしさ

（後小松院御百首）

第百二代 後花園天皇 『歷代天皇の御製集』二百頁

伊勢（享徳元年―一四五二）

さらに今つくる内外の宮ばしら



代々にたちや帰らむ

（後花園天皇御製和歌集）

賜^フ 二足利義政^ニ 一

殘民爭^{ざんみんあらそひて} 採首陽薇^{とるしゆやうのび}

處處開^{しよしよひらきて} 二爐鎖^{ろろ} 竹扉^{とぎす ちくひら} 一

詩興^{しきやう} 吟酸^{ぎんさん} 春二月^{はるにがつ}

滿城^{まんじやう} 紅綠^{こうりよく} 爲^{ため} 誰肥^{たがこゆる}

第百三代 後土御門天皇 『歷代天皇の御製集』二百八頁

伊勢（明応四年―一四九五）

☆にごりゆく世を思ふにも五十鈴川



と神をなほたのむかな

（御土御門院御集拾遺）

祝（明応八年―一四九九）

☆神代よりいまにたえせず伝へおく三種みくさのたから

（御土御門院五十首和歌）

五、戦国時代の御製

第百五代 後奈良天皇 『歴代天皇の御製集』二百十頁

神祇（大永元年―一五二一）

宮柱朽ちぬ

をたておきて末の世までのあとをたれけむ

（後奈良院御製集）

神祇（亨禄三年―一五三〇）

☆いそのかみふるき茅萱ちがやの宮柱たてかふる世に

（後奈良院御製集）

今茲ことし 天下大疫イニえきシ 万民多ばんみん 阼ク 二於死亡のぞム 一。

朕為ちん 二民父母たりテ 一、徳不たみノ 能レ覆ふ、甚とく 自痛焉あたハ おおフコト はなはダ みづからいたム。

窃写ひそカニ 二般若心經うつス 一卷於金字はんにやしんぎよういつかんヲ 一、（中略）

庶幾こひねがハクハ 虜為たランコトラ 二疾病之妙薬しつぺいの みようやく 一。

（参考）『後奈良院御撰何曾ぎよせんなぞ』

①上は上にあり下は下にあり

②上をみれば下にあり下をみれば上にあり、母の腹を通りて子のかたにあり

（お知らせ）

当資料の和歌などの現代語訳は以下のサイト（「和歌ナビ」）に掲載いたします。



<https://waka31.jp>